

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【原山中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p>&lt;学習上の課題&gt; 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況が十分な生徒と不十分な生徒と二極化している傾向にある。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 生徒一人ひとりの知識・技能の習得状況に応じた個別最適な学びの場を設定した授業づくりをする必要がある。</p>	⇒ 思考・判断・表現等の学習の過程を通して習得した知識・技能を、他の学習や生活の場面でも活用できるような学びの場を設定する。【適宜】 生徒自身が最適な学習方法を決定できるように、協同学習やワーク、スタディサプリなど、生徒が選択できる学習形態を増やす。【適宜】
思考・判断・表現	<p>&lt;学習上の課題&gt; 学習課題を解決するために、新たに身に付けた知識・技能や既習事項を活用し、粘り強く試行錯誤することに課題がみられる。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 教科横断的な視点も加え、生徒が思考・判断・表現する場を効果的に設定した授業づくりに注力する必要がある。</p>	⇒ 各教科等の授業において、生徒が自分自身の考えをまとめ、発表したりする場面や、級友と意見を交わしながら学習を進める必要のあるような学習活動を設定する。【適宜】 生徒自身が学習のゴールを意識して学習計画を立てたり、学習方法を決めたりする場面などの個別最適な学びの場を設定し、必要感をもって取り組むことができるような授業づくりを行う。【適宜】

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	
思考・判断・表現			

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)		
知識・技能	国語・数学どちらの教科においても、埼玉県平均や全国平均に比べて、正答率は高く、無回答率は低い傾向にあった。基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けて個別最適な学びが進んでいるといえる。しかし、調査結果概況の正答率分布グラフを参照すると、二双の山になっている。このことから、当初の課題に挙げたような、知識・技能の習得状況の二極化が生まれていることがわかる。		
思考・判断・表現	国語・数学どちらの教科も、「知識・技能」の項目と比較して、正答率が低く、また無回答率が高くなる傾向にあった。ただし、全国平均の正答率と比較すると、国語は4ポイント、数学は10ポイント上回っている。また、選択式問題の本校正答率と全国正答率の差が3ポイントであるのに対し、短答式、記述式問題の正答率の差は5~10ポイントであることから、習得した知識・技能を表現する資質・能力が身に付いているといえる。		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	授業改善を図り、探究的で個別最適な学びの実践に努めている。	変更なし
思考・判断・表現	B	教科ごとに指導計画の見直しを定期的に行い、自分自身の考えをまとめ、発表したりする場面や級友と意見を交わしながら学習を進める必要のある学習活動の設定に努めている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)